

【Ⅲ. 指標による評価】

評価		理由等	平均評価
i	概ね達成	地域と学校の連携の窓口となる教職員等の研修会を6教育事務所毎に実施し、地域人材の活用等について小・中学校教職員の周知・理解を図った結果、目標値を概ね達成した。なお、23年度実績が10月に確定するため、目標値と実績は22年度の数値を記載している。	達成
ii	概ね達成	地域人材の活用による運動部活動の指導が充実したことなどが周知された結果、目標値を概ね達成した。	
iii	達成	これまでの文化・スポーツ・体験・交流活動に加えて、学習活動を取り入れる教室が増加した結果、目標値を達成した。	
iv	概ね達成	耐震化を積極的に推進した結果、公立高校・特別支援学校については目標値を達成し、公立小中学校については目標値を概ね達成した。	
v	達成	津波を想定した避難訓練の実施についての各学校への積極的な働きかけの結果、目標値を達成した。	
vi	達成	私立学校施設の耐震化を積極的に働きかけた結果、目標値を達成した。	

【Ⅳ. 指標以外の観点からの評価】

取組No.	評価
①	・回覧板、ケーブルテレビ、防災無線で学校行事や支援活動を告知したことにより、子ども支援に参加した地域住民が22年度11,484人から23年度26,062人と約2.5倍に増加した。
②	・歴史博物館や先哲史料館の歴史文化に関する訪問講座等を充実させたことで、受講者数が前年度比35%(1,311人)増加した。
③	・企業や行政関係者からの学校経営に関する評価と指導・助言により、組織的な学校改善への取組ができた。
④	・就職支援員の派遣など進路指導の充実に取り組んだ結果、私立高校生就職内定率は22年度実績を3.9ポイント上回る96.8%となった。
⑤	・AEDの設置の推進について働きかけた結果、県立公立学校の設置率が77%(H21)から88%(H22)となった。

【Ⅴ. 施策を構成する主要事業の評価】

取組No.	事業名	事務事業評価		事業コスト (千円)
		総合評価	掲載頁	
①	1 地域「協育力」向上支援事業	現状維持	230	66,476
	2 大分元気っ子体力パワーアップ事業	終了(24年度末)	227	20,973
②	1 郷土の先達・地域文化顕彰事業	終了(24年度末)	—	4,500
	2 ふるさとの歴史教育支援事業	現状維持	—	6,078
③	1 学校改革支援事業	現状維持	—	6,480
	2 高校改革推進事業	現状維持	—	19,120
④	1 私立学校運営費補助	現状維持	78	4,554,363
⑤	1 県立学校施設整備事業	現状維持	229	4,087,401
	2 私立学校施設耐震化促進事業	見直し(24年度)事業内容の拡充	79	25,764

【VI. 主な取り組みの進捗状況・今後の課題】

進捗状況	取組No.①～⑤の全てにおいて、順調に進んでいる。	
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み内容等の充実や、運動部活動に必要な地域人材の確保 ・地域の人材を活用した郷土の歴史文化に関する学校教育のより一層の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校耐震化の可能な限りの前倒し実施 ・私立学校施設耐震化の一層の推進

【VII. 施策に対する意見・提言】

<ul style="list-style-type: none"> ○新大分県教育総合教育計画の見直し素案への教育委員の意見(H23.10) ・学校評価の結果については、学校のホームページを通じて公開することが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「安心・活力・発展プラン2005」改訂素案に対する県民意見(H23.11) ・公立学校の耐震化は国からも積極的に勧められている政策であり、学校は災害時の避難施設にもなるので着実に進めてほしい。
---	--

【VIII. 今後の施策展開について】

今後の方向性	施策展開の具体的内容
現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・各種目団体等との連携により、新たな地域人材の発掘を行う。 ・地域の史談会等の会員による学校での郷土の歴史文化に関する授業の実施を全県的に進める。 ・市町村に対し、耐震化計画の前倒しを行うとともに、国庫補助金の積極的な活用を呼びかける。